

安曇野市教育振興基本計画（案）に関するパブリックコメントの実施結果

・意見募集期間 令和6年12月23日（月）から令和7年1月21日（火）、意見募集の結果43件

No	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
1	12	7～10 ページでせっかく整理した「計画でふまえる視点」が「基本方針」にどのように関連付けられているかを分かるようにしたらどうでしょうか	ご提案ありがとうございます。「計画で踏まえる視点」により基本理念、基本目標を作成しています。また、「計画で踏まえる視点」は施策を推進するうえでの工夫点として、事業を進める中で取り入れてまいります。
2	14 15	15 ページ内の「基本施策」の内容は、14 ページの「施策」に入れ込んで、「基本施策」の欄は「具体的な施策」とし、施策を具体化したものにした方が良くと思います。	「具体的な施策」を15 ページに記載すると記載量が多くなりすぎてしまい、見開きに収まらなくなるか、文字が小さくて読み取れなくなってしまいますので、現在の形が良いと考えます。
3	18	「貧困による教育・体験の格差を埋める取組が求められます。」と記載されていますが、子どもの体験格差を埋める取組がこの計画には記載されていません。体験格差を埋める施策を盛り込んでください。また、体験格差は貧困のみが原因ではない点にも留意してください。 (理由) こども期の体験は、その後のウエルビーイング（非認知能力）に大切です。保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡などによる、こどもの体験格差が指摘されており、その解消が課題となっているため。	本市の公立認定こども園は、「信州型自然保育」の認定を受けて、屋外での遊びや運動を中心に様々な体験の場を確保した教育・保育を推進しております。幼少期の体験機会は重要であると捉えており、家庭の状況にかかわらず様々な体験ができるよう取り組んでまいります。低所得家庭への支援としては「3歳未満児の低所得世帯の保育料の軽減」など経済的な負担を減らす取組みを行ってまいります。
4	18	「現状と課題」は、何がどのくらい問題なのかを数値化して具体的にしたほうが良いと思います。数値化しないと改善の効果を評価できません。	「現状と課題」の記載のもとにしている数値は、資料編に掲載しておりますのでご覧ください。
5	18 19	相対的貧困世帯の割合はいくらなら良いのでしょうか。	相対的貧困家庭を特定することで、相対的に裕福な家庭との様々な格差の存在を確認することを目的として調査を行いました。経済的な格差があっても、学習や体験の格差に直結しないようにすることが教育政策の役割であり、そのための施策を記載しています。貧困世帯をなくしていくことは福祉政策で検討すべき内容となりますので、相対的貧困世帯の割合を、どの程度の水準にするべきかについては、この計画の目標としては扱っていません。以上をふまえてお読み取りいただければ、「現状と課題」「施策の方向性」等が連動しているのご理解いただけると考えます。
6	18 19	前ページの「現状と課題」と「施策の方向性」の関連性が分かりません。	

No	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
7	18 19	「数値目標」の「指標」も「目標値」が出てきた根拠が分かりません。	数値目標の指標及び目標水準は、各施策を推進することで達成を目指す目標を表したものです。上位計画である第2次安曇野市総合計画 後期基本計画に設定されている目標と整合性を図りつつ、近年の実績を踏まえ、設定しています。
8	19	アンケートは感覚それも主観であり、だれがいつどのように聞くかによって変わってしまいます。またアンケート結果をどのように捉えるかの問題も出てきます（資料23、24など）。従って、アンケートを使うならば補助的に使うべきで、指標にするのは客観的なデータにしたほうが良いと思います。（後で出てくる「学校給食での地場産物の使用割合」は客観的データです。）	指標としているアンケートに関しては、第2次安曇野市総合計画 後期基本計画の指標の進捗管理のための市民アンケートや文部科学省の数値を用いています。主観的なデータであっても一定のサンプル数を確保した調査であれば、信頼できるものであり、指標として用いることに問題はありません。
9	19	地場産物以外のアンケートのデータは、前述の理由で目標値として使うべきではないと考えます。	
10	19	「数値目標」は個別の客観的データで設定するべきです。アンケート結果は「個別の施策がこのように改善されることにより、これらの効果の積み重ねがアンケート結果にも反映されている。」という程度に補助的に使用した方が良いと思います。そうしないと、全体として改善されたときに個別の施策のうち何が効いたのかが分からなくなり、次回の計画に反映させることができません。	
11		「数値目標」は具体的な施策について設定したほうが良いと思います。	
12	19 20 27	「施策」は対策のための具体的な内容とし、目標を数値で表したほうが良いと思います。「質の高い教育や保育を提供します」では何をやるのかわかりませんし、どうなれば良いのかもわかりません。「地場産物の使用割合」であれば、「現状28.1%を〇〇年に〇%にする。」とできます。	教育振興基本計画に基づき、具体的な事務事業を推進します。具体的な事務事業に関しては、個別に数値目標を設定し、取り組んでいます。
13		「一人1台の電子端末」はすでに実績があるので、その評価をすべきです。良い点ばかりでなく、悪い点も客観的に評価して、良い点は伸ばす、悪い点は改善する施策にした方が良いと思います。	
14		「施策目標」が出てきた根拠は何でしょうか。	

No	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
15	20, 24, 26	「現状と課題」の内容があいまいです。デジタルではない。学力が低いのであれば、そのデータは？考える力が足りないのであれば、そのデータは？	この計画は「学力が低い」ことを課題として指摘たものではありません。「主体的な学び」を課題としたのは、学習指導要領の趣旨を踏まえたものです。この視点でお読み取りいただければ、「現状の課題」と「施策目標」と「基本施策」と「施策」の関係性をご理解いただけるものと考えます。
16	20 24 26	「施策」は、「現状と課題」から出てきた課題と連動させたほうが良いと思います。連動していないと課題の解決に結びつきません。	
17	20 24 26	「現状の課題」と「施策目標」と「基本施策」と「施策」の関連性が明確ではありません。	
18	20	「主な事業」は「施策」と被るので「施策」に入れてまとめ、代わりに「責任部署」としたほうが良いと思います。	ご提案内容の趣旨が判然としませんが、より実行性のある計画とするために各課と役割分担・連携を図りながら、施策を推進していく必要があると考えており、「主な事業」は、各課が取り組む具体的事業を記載しています。
19	24	「地域への愛着、定住志向が下がっていく」というのは悪いことなのでしょう。成長して視野が広がってくれば当たり前のことと思われれます。逆にいつまでもこの地域から出たくないと言われるほうが心配になります。このアンケートを使うのであれば、「思わない」という人の理由について分析したほうが良いと思います。	児童生徒が成長し、視野を広げる中においても、本市の魅力にふれることで、児童生徒の心の拠り所や戻ってきたい場所になるよう取り組むことは、本市に限らず、日本全国の市町村において必要とされている課題であると考えます。将来の選択をするのは最終的には、児童生徒自身であるのは当然ですが、学校や地域において本市の良さをしっかりと伝えることで愛着を醸成していくことは教育の重要な役割と考えます。
20	25	「現状と課題」との関連性が不明です。「方向性」も「数値目標」も。もしこの指標を使うにしても、目標値は「あるべき姿」だと思いますが、100%でない理由は何でしょうか。	No8, No15, No19 をふまえ、お読み取りいただければ、「現状の課題」と「施策」等の関連性をご理解いただけると考えます。
21	25	地場産物は客観的データだが、目標値を決めた理由が分かりません。	
22	26	「施策」には具体的に実施することを入れたほうが良いと思います。「学力や教養の向上と定着を図ります」では何をやるのか分かりません。	「学力や教養の向上と定着を図ります」の事業の内容は、同じページの「主な事業」の欄に記載したとおりです。

No	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
23	27	中学1年生だけでなく、小学校においても、その学年・段階に応じた、どんな仕事をしたいか、仕事を通じてどう生きたいか、という自身の軸を形成するような機会を設けてほしい。	27 ページに記載のあるとおり、本市においては小学校から中学3年生まで「段階に応じたキャリア教育」を推進しており、どんな仕事をしたいか、仕事を通じてどう生きたいかなどを考える機会を設けています。
24	27	目的が「地元にある企業を知る機会の提供」であれば、単発の「フェスティバル」ではなく、継続的な取組みの方が良いのではないのでしょうか。どちらにしても、どのように評価するかが重要です。	
25	29	中学生キャリアフェスが計画の中に明記されて継続されていくことは良いと思う。生徒たちに「安曇野で働く多様な大人たち」と対面で話し合えることは、仕事や生き方について将来の選択肢が広がる。また将来は生まれ育った安曇野で働くという選択肢も子どもたちの視野に入ることになる。	「安曇野市中学生キャリアフェスティバル」など、キャリア教育の推進は、重要施策として位置づけており、本計画においても引き続き、取り組んでまいります。
26	29	「育てたい子ども像」の位置付けは何でしょうか。「誰がいつまでに作るのか?」「どのように使うのか?」などが明確ではありません。	29 ページに記載したとおり、中学校区単位で、小中学校に共通する「育てたい子ども像」を設定しています。それに基づき、各学校ごとの教育方針や活動を実践しています。
27	30	本市では給食のお米に有機米を年4回提供している。それに伴い、既に「環境にやさしい給食」と銘打ったメニューもある。社会的な潮流として今後学校給食の有機化へ向かうことになると思われるが、計画の中にこの点「環境にやさしい給食」についても明記してはどうか。	ご提案ありがとうございます。基本施策2：学校給食の充実、食育の推進の「施策1：安曇野型食育・地産地消の推進」に以下を追記します。 追記 ：また生産者等と連携し、旬の安曇野産食材を取り入れた地域の伝統食季節の行事食、環境に配慮等した農産物による「環境にやさしい給食」の提供に取り組みます。
28	31	施策3：児童生徒の自殺予防対策にタブレットの活用を追加してください。・タブレット端末を使って自殺リスクや心の不調を可視化するシステム導入を検討し、SOSを出せない子どもたちのかけがえない命を守ります。 (参考)日本財団ジャーナル「SOSを出せない子どもたち。見えない自殺リスクをタブレットで可視化し、予防する」2022/06/14から抜粋 長野県教育委員会では、子どもの自殺危機対応チームの研究・開発への協力の中で2021年度にRAMPSを試験的に導入した。「あえて聞くこと」を重視することで、自身の気持ちを吐露できずにいる子どもの本音を引き出すように開発されたRAMPS。RAMPSを導入した学校の教諭からは、おおむね成果につながっているとの報告があった。	記載いただいたものと類似のシステムで、既に実施している事業となります。周知のため、当該施策につき記載します。 追記 ：一人1台端末などを活用し、児童生徒の心身の健康状態を把握し、早期に適切な対応を行います。

No	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
29	32	目的が「体力向上」であれば、数値化しやすいと思うので、目標は数字で表すべきだと思います。	各年の調査結果により力を入れるべき種目が変わるため、数値化することは難しいものと考えます。
30	34	「不登校」は大きな問題なので、不登校が起こる背景や原因にさかのぼった対策を大至急行うべきです。対策されないとこれからますます増加してしまいます。	ご指摘の内容については本市も認識しており、不登校の背景等を個別に分析しています。これらは様々であり、1つの基本施策（施策）としてまとめることは困難です。この計画の2-3、2-4、2-5の基本施策の目的の1つは、不登校に対する対策となっています。
31		「不登校」がこれだけ急激に増えているので、対策は待ったなしと考えます。このまま増え続けたらどうなるのかとても心配です。発生する背景や原因を分析して、至急根本対策が必要だと思います。	
32	34	施策名として「多様な学びの充実」とあるが、施策内容を読むと、「フリースクール等民間施設と体験活動を行うなど交流を図る」に留まっている感がある。もう少し民間教育施設へのサポートや公設民営の中間教室なども書き込んでどうか。市における小中学校の不登校児童生徒数の増加をみると、もっと力を入れてもらいたい。	現在は教育施設連携促進コーディネーターを配置し、民間教育施設等との様々な連携の在り方を研究しています。いただいたご意見を参考に、不登校児童生徒の多様な学びの充実に向け取り組んでいきます。
33	40	□囲いの文章に追加をしたらいかがでしょうか。追加例)・・・学びと成長を支え、健全育成を図ります。 ⇒健全育成をはかるとともに、地域のつながりづくりを推進します。 理由)基本施策1の説明文の末尾が、「学校を核とした地域づくりを進めます。」とあります。地域づくりを補完する文章が必要ではないかと考えました。	ご提案のかたちに追記します。 追記 ：学校・地域・家庭が連携協働する安曇野市版コミュニティスクール事業（ACS）を広く周知し、推進することにより、地域全体で子どもの学びと成長を支え、健全育成を図るとともに、地域のつながりづくりを推進します。

No	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
34	44	<p>施策2：子どもの意見の尊重を追加する・子どもの権利を守るためには、一人ひとりの子どもに真剣に向き合い、その声に耳を傾け、その意見を否定せずに受け止める姿勢を示すことで、子どもたちが「自分は大切にされている」と感じられることが大切です。その実践を通して子どもたちが自己肯定感を育めるようにします。・学校や教室の中で、子どもたちが安心して意見を言える雰囲気を作ります。・保護者に対して子どもの権利の重要性を伝えます。配布物や保護者会の場で、「子どもの意見を尊重する方法」等について情報提供を行います。（理由）p44のコラムにも記載がある「年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する事項に関して意見を表明する機会を保障されること。年齢及び発達に応じて、意見の尊重、最善の利益が優先して考慮されること。」を具体的な施策（特に意見の尊重）として盛り込むようお願いいたします。児童生徒だけでなく保護者にも啓発（さらに各家庭で実践していただくこと）が効果的だと思われま。</p>	<p>ご提案の趣旨を踏まえた記載を追記します。 <u>追記</u>：学校において子どもたちが意見を言いやすい環境づくりを行うとともに、子どもの主体性を大切に、学校ルールの見直しや行事活動に子どもの意見を取り入れる取組を推進します。</p>
35	50	<p>□囲いの文章 生涯学習課 豊科公民館ホール の部分に以下を追加したらいかがでしょうか。 追加例) ⇒ 地域公民館施設 理由) 成果発表の場として、公民館も大切に考えています が・・・。</p>	<p>ご提案のかたちに追記します。 <u>追記</u>：主な事業欄 生涯学習課 豊科公民館ホール、<u>公民館運営事業</u></p>
36	50	<p>□囲いの文章 生涯学習課 生涯学習講座実施事業 の後に以下を追加したらいかがでしょうか。 追加例) ⇒ コミュニティスクール事業 理由) 生涯学習課もコミュニティスクール事業の一翼を担っているからです。</p>	<p>40 ページのコミュニティスクール事業について、生涯学習課を所管課の1つとして記載しておりますので、ご了解ください。</p>
37	67	<p>「NPO 法人や市民団体と連携し、文化財の保存と活用を図る」とあるが、現在市観光課では等々力家の観光資源としての活用を検討している。これまでは文化財は保護が第一義で、活用については二義的であった。 等々力家については、より積極的に活用して保存していく、という考え方である。今後、このような活用例を創出していかなければ、</p>	<p>ご提案のかたちに追記します。 <u>追記</u>：NPO 法人、市民団体、民間事業者と連携し、文化財の保存と活用を図ります。</p>

No	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
		費用面も含めて維持管理が難しいと考える。文章の中に、NPO 法人や市民団体、民間事業者と連携し、」としてはどうか。	
38	68	「相対的貧困率」を使う理由は何でしょうか。	世界の途上国では、飢餓の懸念もあることから絶対的貧困率が指標にされているケースがあります（SDGs）。日本では、そのようなことはほぼないため、相対的貧困家庭を特定することで、相対的に裕福な家庭との様々な格差の存在を確認することを目的とした調査を行いました。相対的貧困率を使う理由は、No5, No6 で記載したように、経済的な格差があっても、学習や体験の格差に直結しないようにするためです。なお、相対的貧困率は、この計画の指標ではありません。
39	68	「相対的貧困率」はばらつきがある限り0にはならず、ある一定の割合が発生します。みんなが裕福になっても貧困線があがるだけで、ある割合で発生するし、みんなが貧乏になっても同じようなある割合でしか発生しません。	
40	68	貧困というものは相対的なものなのか。この指標を使うことの是非を検討願います。	
41	71 83	図表 25 の分類の根拠が不明です。又、これはどこに反映されているのでしょうか。 アンケートは回収率も重要なので入れて下さい。	
			アンケート項目について「満足度」「重要度」を把握し、回答結果を得点化したうえで平均点を算出したところ、「満足度」は3.35点、「重要度」は4.32点でした。その平均点をもとにA～Dの4象限に分類しています。分類の根拠については、追記します。「重点改善」項目については、基本方針1～3の施策に反映しています。なお、計画記載のとおり、このアンケートは「教育振興基本計画策定に係る保護者アンケート」の分析資料から引用したものです。当該資料は第2回安曇野市教育振興基本計画策定検討委員会にて配布し、ホームページにも公開しておりますので、ご参照ください。

No	ページ	ご意見の概要	ご意見に対する市教育委員会の考え方
42	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の把握から施策までが論理的につながっていません。・このままだと、個別のやる事がすでに決まっています、それに合うように上位の指標を決めているようにしか見えません。 ・課題を解決するためには現状の分析がとても重要です。現状の把握はできるだけ詳細に分析して、悪さ具合を数値化するべきと考えます。数値化すると優先順も目標も決めやすいし、解析も分かりやすく、もちろん対策も評価もやりやすくなります。 ・「現状の課題」から詳細な現状分析をし、緻密な解析をしないと体躯である「施策」が間違ってしまう。 ・「施策」はできるだけ具体的にすべきです。そうでないと何をやればいいのか分かりません。逆に、何をやっても無理やりこじ付けることができます。 ・「現状の課題」から分析して個別の「施策」が出てこないとお金と時間とマンパワーをかけて個別の「施策」をやり遂げても、それが課題可決に全く結びつかないということが起こります。 	<p>ご指摘を踏まえ、読み手にかかわらず、多くの方に市の教育を取り巻く状況と政策・施策の趣旨を読み取っていただけるよう工夫していきたく考えています。ただし、教育振興計画は、本市教育分野のマスタープランにあたり、関連する多くの政策・施策を1冊に取りまとめ、これを読めば市の教育政策の現状・課題と方向性を概観できることを目指しています。このため、「主な事業」に記載のある個別事業の課題などについてはこれだけで理解することは難しいため、また別の資料で確認をいただくことが必要です。「主な事業」レベルの主要な事業については、毎年度実施している、事務事業評価の資料をご確認いただければ幸いです。本計画は、あくまで全体像を示すものであり、施策・事業が多岐に渡る構造のため、すべての施策・事業の背景情報や進捗状況までは説明しきれないものであることにご留意ください。</p>
43	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に論理的な展開になっていない部分が多いと思います。これにより懸念されるのが、現状の課題と施策があっていないことで、結果的に見ると、せっかくお金と時間とマンパワーをかけて施策を実施してもその効果が全くでなくなってしまうということです。 ・問題解決のやり方や計画の立て方や分かりやすい資料の作り方など一度外部のコンサルティングを入れてみてはどうでしょうか。今までとは違う視点で考えることができると思います。 ・子どもたちの問題は現在進行形であり待ったなしです。現状の問題をすぐに吸い上げて、対策が至急打てるような「仕組み」を取り入れてほしいと思います。 	

※ 令和6年7月24日開催の総合教育会議にて、市歌を大事にしていけるような具体的な目標があればいい旨の意見をいただきました。このことについて検討し、市歌作成の経緯及び歌詞をコラムの形式で追記しました。